パリ日本文化会館友の会 ハイライトニュース 2018　No.15
MCJP2018 ― No.15 作成日：Friday, December 14, 2018
作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

「ジャポニスム 2018」続報９

本号では、11 月中旬から 12 月初旬にかけて開催された「ジャポニスム 2018」の諸事業について報告致します。

目次

1. 宮城聰演出「マハーバーラタ」公演　2～3
フランスで過去３回公演して大好評を博した宮城聰演出の「マハーバーラタ」の公演（於ラ・ヴィレット）
2. 田中英道「ジャポニスム：北斎とセザンヌ」講演　4
講演シリーズの一環として開催した東北大学田中英道名誉教授による講演会（於パリ日本文化会館）
3. 河瀬直美監督特集　特別展・特集上映　5
奈良の自然と四季をテーマにした河瀬直美監督の特別展と同監督映画の特集（於ポンピドゥー・センター）
4. 藤田貴大演出「書を捨てよ町へ出よう」公演　6
寺山修司の戯曲を、現代的要素を加味して藤田流に再構築した作品の上演（於パリ日本文化会館）
5. 「MANGA⇔TOKYO」展　7～8
マンガやビデオ・ゲーム、映画等の舞台となっている大都市東京のフィクションと現実を重ね合わせた展覧会（於ラ・ヴィレット）
6. 「HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE」　9～10
バーチャル・アイドル・シンガー初音ミクによるヨーロッパ初のコンサート（於ラ・セーヌ・ミュージカル）

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

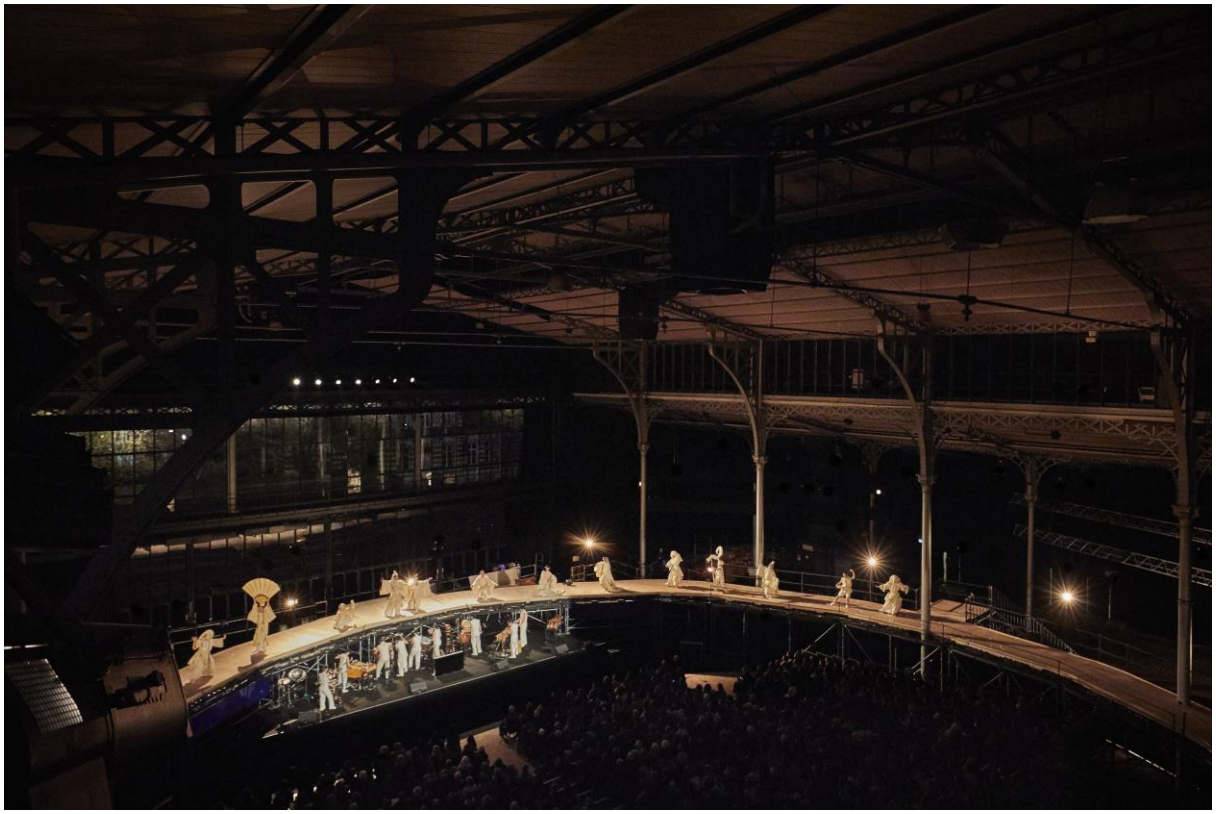
作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

① 宮城聰演出「マハーバーラタ～ナラ王の冒険～」公演

ラ・ヴィレットの大ホールで宮城聰演出の「マハーバーラタ」が 11 月 19 日（月）から 25 日（日）まで 11 月 22 日（木）を除き６回上演されました。2006 年にケ・ブランリー ジャック・シラク美術館のこけら落し公演を行い、その後2013年に同劇場で再演、2014年の第 68 回アヴィニョン演劇祭においてブールボンの石切り場で上演して大好評を博した演目です。今回はラ・ヴィレットのフュジリエ館長の強い要望もあり実現したものです。

筆者が拝見したのは 19 日の初日公演でした。前日に公開通し稽古が行われましたが、その際にはフランスの前文化大臣が鑑賞されたそうです。

舞台の空間デザインは本ニュース第 10 号の⑤（p．８）でお伝えしたように木津潤平さんが担当しています。2014 年にブールボンの石切り場で実施したのと同じく、客席を取り囲むループ状の奥行きが浅く高い舞台上で劇が展開されました。3000 平方メートルの広いラ・ヴィレットのホールに役者の小ささが感じられないような工夫で、人間の影が壁や天井に大きく投影される仕掛けも同じです。舞台周囲の環境をそのまま舞台に取り込むようなランドスケープ劇場という木津さんの舞台空間づくりが活かされています。



観客を取り巻くループ状の「マハーバーラタ」の舞台　　©Christophe Raynaud de Lage

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

宮城さんによれば、日本は中国とインドの文化に少なからぬ影響を受けていることに加え、どの国の文化も多かれ少なかれ雑種化によって豊かになってきたとの持論を持っています。それゆえ、インドの叙事詩『マハーバーラタ』を演出する際にも、日本の伝統文化と掛け合わせ新たな創造をしたかったのだそうです。

『マハーバーラタ』は１８篇１０万詩節からなるインドの叙事詩で、フィンランドの『カレワラ』やギリシャの『イリアス』と並ぶ世界の３大叙事詩の一つと言われています。今回の劇で取り上げている「ナラ王物語」は、『マハーバーラタ』の挿話の一つで、賭けに負けて気を落としている王子を慰めるために語られた話です。もともと賢王として誉高かったナラ王は、美しく機智に富んだダマヤンティ姫を妃に迎え、幸福な日々を送っていましたが、ダマヤンティ妃に横恋慕した魔王カリに取り憑かれ、賭けに誘われて負け続け、王国を失ってしまいます。すべてを失ったナラ王は森をさまよい、醜い小男に姿を変えられ、別の国の王のもとで馬番として働くことになります。一方、ダマヤンティ妃は、いちずにナラ王を慕い続け、虎や悪霊が跋扈する森へと分け入り、ナラ王を捜索し続けます。ダマヤンティ妃は機知と策略によって、馬術に長けたナラ王が王国に一番乗りするような仕掛けをし、馬番に変身したナラ王と再会します。再び賭けをすることになったナラ王は、今度は魔法が解けていたので賭けに勝ち、めでたく王国を取り戻します。ナラ王の栄華、放浪、返り咲きの冒険物語ですが、どちらかというと美しく機知に富んだダマヤンティ妃が主役のような物語です。

『マハーバーラタ』という題には「バラタ族の戦争に関する叙事詩」という意味があるそうで、本編は悲惨な戦争で勝者も敗者もともに多くの被害者を出すという無常観に満ちた物語です。その中にあって唯一、ナラ王の挿話には戦争描写がなく、賭けで物事の決着がつけられています。宮城さんは、戦争を経験していない世代として、戦争なしでも権力の移譲が行われていること、また女性であるダマヤンティ妃が男性ヒーローと同等、あるいはそれ以上の活躍をしている点に注目し、「ナラ王物語」を選んだということです。

この物語を宮城さんは、人形浄瑠璃あるいは文楽の、人形遣いと浄瑠璃語り（太夫）、三味線の三業が三位一体となって演ずるように、動く者、語る者、楽器を演奏する者が三位一体となった演劇に仕立てています。ある役者さんに聞いた話によれば、それぞれの役は非常に厳しい練習を課せられます。語りと動作、演奏の三業の調和が少しでも乱れると演劇として見せられなくなるからです。また、ループの大小によって歩幅を調節しないと微妙に間隔がずれてしまうので、舞台の場所が変わるたびに、入念に練習を積むそうです。

観客たちは、見ているうちに物語に惹き込まれ、演劇を堪能し、幕が引くとそれぞれが余韻に浸り、満足感と感動を覚えているようでした。

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

② 田中英道「ジャポニスム：北斎とセザンヌ」講演

11 月 22 日(木)にパリ日本文化会館で東北大学名誉教授の田中英道先生による講演会「ジャポニスム：北斎とセザンヌ」が開催されました。田中先生は国際アンドレ・マルロー学会の副会長もされており、北斎とセザンヌの関係もアンドレ・マルローの視点を加味しながら自説を展開されました。

従来、ジャポニスムがセザンヌと関連付けて語られることは稀でした。しかし、田中先生によると、それはセザンヌがゴーギャンの輪郭で仕切る描き方（クロワニスム）が嫌いであったからで、敢えてゴーギャンが好きな浮世絵と関係のないふりをしたのであって、実際には日本の浮世絵を細かく研究していたということです。

先生は、さらに続けて、ゾラの友人だったセザンヌは 1878 年のパリ万博にも興味をもっていただろうし、特に万博の関係で日本から派遣されてきた渡辺省亭が印象派の擁護者であるシャルパンティエやビュルティの家で墨絵の実演をしたのに立ち会った可能性がある。省亭による「線なしに物を描く」没骨画法を目にし、学んだのではないか。事実、その頃を機にセザンヌの画法は変わっている。物体の表面を色班で描く方法が使われるようになった、と論述しました。

セザンヌは北斎を敬愛しつつもライバル視していたと思われる。1890 年からサント・ヴィクトワール山のシリーズを 36 点描いているが、これは明らかに北斎の「富嶽 36 景」を意識してのことであろう。しかし、北斎とセザンヌの決定的違いがある。一つは、北斎が描いた富士山は信仰の山としての側面があるが、セザンヌの描いたサント・ヴィクトワール山は描く対象としての山であって、信仰の対象としての山ではない、という点。もう一つは、北斎は風景を描くときに中景を抜き、遠景と前景のみ描いた。そのことが北斎画に意外性を生んでいる。しかし、セザンヌの風景画には遠景、中景、前景があり、西欧の伝統的な構図を守っている。結論として、セザンヌは北斎をよく研究したが、影響を受けたというより、メタモルフォーゼしたのである、と結びました。

講演する田中英道東北大学名誉教授

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

③ 河瀬直美監督特集　特別展・特集上映

ジャポニスム 2018 の公式企画として、2018 年 11 月 23 日（金）から 2019 年 1 月 6 日（日）までポンピドゥー・センターで河瀬直美監督特集の特別展と特集上映が開かれています。

特別展は「春夏秋冬」と「想いのスクリーン」という２つのインスタレーションで構成されています。「春夏秋冬」は河瀬さんの故郷である奈良の自然の四季を撮影した映像が流れる弧を描く小道で、「想いのスクリーン」は桟に和紙を貼った障子状の仕切りが 30 ㎝ほどの隙間を空けて円形に並んでおり、その上に河瀬さんの半生を撮った写真がかわるがわる映写されるものです。障子の上にはこの企画に携わった人や関係者等の大勢の人々のサインが記されています。筆者の名前もありました。円内に入ることはできませんが、隙間から反対の障子に映る映像が見えるようになっています。また、メインステージでは河瀬さんが書のパフォーマンスを行い、大筆で「春夏秋冬」「奈良」という字を、墨をたっぷり含ませながらゆっくりと描きました。大勢の人が見ていますので、その人たちの頭越しに見るのはなかなか大変でした。展示の内覧会には 300 人を超える人が来場しました。

「想いのスクリーン」

その後、20 時半から日本式 2 階にある大ホールで今回の特集のために河瀬監督が撮り下ろした短編映画「Où en êtes-vous, Naomi Kawase？: la lune」と長編映画「ヴィジョン」の上映会が始まりました。冒頭、開会式が行われ、ポンピドゥー・センターのセルジュ・ラスヴィーニュ総裁、国際交流基金の安藤裕康理事長、河瀬直美監督、そして主演女優のジュリエット・ビノシュさんの順で挨拶がありました。「ヴィジョン」は 7 月 12 日の「ジャポニスム 2018」公式オープニングでプレミア上映された映画です。7 月に筆者は前半しか見ていませんでしたので、この日初めて通しで終わりまで見ることができました。吉野の美しい森を舞台にしたファンタジックでミステリアスな映画でした。奈良県から吉野町の北岡篤町長や奈良県地域振興部の山下保典部長らの姿もあり、315 席の会場は満席となりました。1 月 6 日までの会期中、河瀬監督の長短編映画が 35 本上映されることになっています。

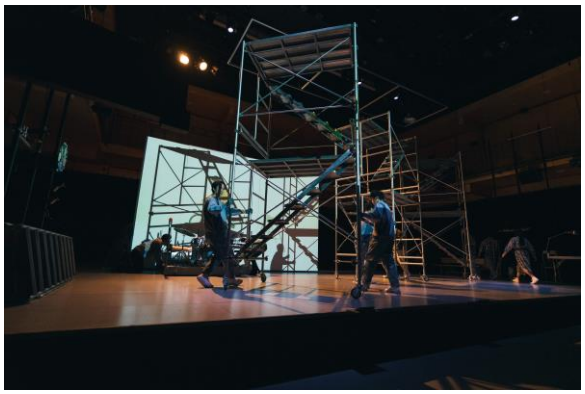
注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

作成者：館長 杉浦 勉 t.sugiura@mcjp.fr https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

④ 藤田貴大演出「書を捨てよ町へ出よう」公演

「ジャポニスム 2018」の現代演劇シリーズの一環として 11 月 21 日（水）にパリ日本文化会館で藤田貴大演出による寺山修司の戯曲「書を捨てよ町へ出よう」が上演されました。原作に現代的要素を加味して独自の世界を構築した作品となっています。11 月 24 日（土）まで行われましたが、初日の入場者数は席数 258 席に対して 248 人とほぼ満席となりました。筆者は最終日に見ましたが、やはり大入りとなっていました。初日にはフェスティバル・ドートンヌ芸術監督のマリー・コランさん、ラ・ヴィレットのプログラム・ディレクターのフレデリック・マゼリさん、作家のシャルル・ダンツィグさん、演出家のロラン・フレシュレさん、元天井桟敷の団員でフランスにおける寺山修司の演出助手をしていた獅子頭伸さんらの姿があったとのことです。

最初、舞台の床いっぱいに建築現場の足場を組む時に使われるパイプやら梯子やらパネルが置かれていましたが、それらを登場する役者たちが手際よく操作して、2 階建ての立体をいくつも組み立てながら、セリフを代わる代わる口にしていきます。それぞれの立体に車が付いていて舞台のあちこちに移動し、パネルで連結もできるので、そこを通って他の立体に移ることもできます。そして立体が舞台上をめまぐるしく移動します。そのテンポでセリフ回しがありますので、フランス語の字幕をみるのは大変かもしれません。



藤田貴大演出「書を捨てよ町へ出よう」の 1 シーン ©KOS-CREA

この演出についてカイエ・ド・シネマの評論家ステファヌ・デュ・メニルドさんが同氏のフェイスブックで秀逸なコメントをしています。「藤田貴大は寺山修司の作品を 70 年代の波乱の時代の外側にも存在させることが可能であることを、色彩、メイク、種々の象徴など、寺山修司の世界を即座に想起させるものを一切使わずに証明した。寺山の原作が現代の身体でもって完璧に表現されたのは、藤田貴大演出の勝利である。この舞台を通じ、現代を生きる若い役者たちが、自分たちの時代を生きる難しさを先人たちと共有しているのである。舞台上に組み立てられては解体される足場を通じて、我々は寺山修司の詩情の骨子そのものに触れる印象を持った。また、藤田貴大は、寺山の映画版で「私」を演じた佐々木英明の現在の映像を使い、最後のモノローグを語る現代版の役者佐藤緋美を出会わせる。2 つの時代、2 つの憤りがつながるこのシーンはことさら私の胸を打つものだった。」

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

⑤「MANGA⇔TOKYO」展

11 月 29 日（木）から 12 月 30 日（水）までラ・ヴィレットで「MANGA⇔TOKYO」展が開催されます。その内覧会が 11 月 28 日にありました。

多くのマンガやビデオ・ゲーム、映画等の舞台となっている大都市東京のフィクションと現実を重ね合わせて、マンガの原画やそれに基づいて製作された映画の映像モニターやフィギュア等を展示した展覧会です。

圧巻は中央に設置された 10m四方の巨大な東京中心部の模型です。非常に精緻に製作されていて、上の階に設置してある双眼鏡から細部を除くと、実際の街並みが克明に再現されているのが分かります。背後の壁には大きなスクリーンがあり、そこにはマンガに描かれた東京の景色が映し出され、その描かれた場所が模型上にスポットライトが当たる仕組みになっています。

東京中心部の大模型（上）と双眼鏡で覗いたその一部分（下）

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

マンガの原画や映像モニターは非常に几帳面かつ知的に展示されており、壁面を辿っていくうちに各作品や作家について東京との関係を発見するようなところがかなりありました。ところどころに浮世絵に描かれた東京もマンガとの関係で展示されています。

また、東京の都心を走る電車内を模した実物大の模型に乗ると、窓の外に沿線の景色が見えるコーナーがあり、まるで通勤通学しているような気分になります。フランス人には新鮮な体験になるのではないでしょうか。その他コンビニ店の模型やパチンコ台などのゲーム機器、色々な種類のゴジラやその他の怪獣、『新世紀エヴァンゲリオン』の渚カヲルや初音ミクのフィギュアなども陳列されています。様々な角度から楽しめる展覧会といえます。

マンガ、映像モニター等の展示風景

東京都心を走る電車の模型

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

⑥「HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE」

パリの西のはずれ、セーヌ川の中州にあるスガン島に昨年完成した坂茂設計の「ラ・セーヌ・ミュージカル」という施設があります。そこで 12 月 1 日（土）にバーチャル・アイドル・シンガー「初音ミク」による「HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE」というコンサートが開催されました。

「初音ミク」は、ヤマハが開発した音声合成システム VOCALOID により女性の歌声を合成することのできるソフトウェア音源で、クリプトン・フューチャー・メディアが 2007 年から展開しています。2007 年 8 月 31 日に、声に歌い手としての身体を与えることでよりリアリティを増し、以来バーチャル・アイドル（バーチャル・シンガー）「初音ミク」として親しまれてきました。身長 158ｃｍ、体重 42ｋｇ、トルコ石色の髪をした永遠に 16 歳という設定の少女です。

今回のようにこれだけ大掛かりな「初音ミク」のコンサートは欧州で初めてのことです。

しかし、このところ土曜日になると「黄色いベスト」を着た人たちが燃料費値上げに反対してフランス各地でデモを展開し、この日もシャンゼリゼ周辺で警官と衝突して負傷者が多数出るなど、緊迫した状況となっていました。主に右岸が中心でしたが、筆者がタクシーで左岸からラ・セーヌ・ミュージカルへ向かっていたところ、途中でサンジェルマン大通りが警察によって封鎖され、迂回したところ、その道には 3 カ所ほどで工事現場の仕切りやパイプや木材などが散乱し、燃やされた木材からまだ煙が立ち上っていました。結局、迂回を繰り返しているうちに開演時間を大幅に過ぎてしまったため、諦めて引き返し、「初音ミク」のコンサートは残念ながら見ることができませんでした。

パリのはずれとはいえ交通機関が一部麻痺している中で人が集まるかどうか心配しましたが、参加した館員の話では、フランス国外から来た熱烈なファンを含めて 4687 人が来場し、ほぼ満席の大盛況だったということです。早い人は朝 7 時から並んで待っていたといことも聞きました。同コンサートはパリの後、ドイツのケルンやイギリスのロンドンを巡りました。

そのような事情で公演の様子を直接お伝えできませんが、以下にフランスでの報道ぶりをお知らせします。主要紙をはじめ多くのメディアで取り上げられました。

- **lepoint.fr** :
  https://www.lepoint.fr/pop-culture/musique/comment-la-pop-star-virtuelle-hatsune-miku-a-conquis-le-monde-30-11-2018-2275585_2946.php
- **boursedirect.fr** :
  https://www.boursedirect.fr/fr/actualites/categorie/arts-culture-et-spectacles/la-chanteuse-virtuelle-japonaise-hatsune-miku-a-la-conquete-de-l-europe-afp-c067a627a10e7576754e511d930f43cb398340d6

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

- **Developpez.com** :
  https://www.developpez.com/actu/235885/Apres-l-Asie-et-l-Amerique-la-chanteuse-virtuelle-japonaise-Hatsune-Miku-est-a-la-conquete-de-l-Europe-elle-etait-en-concert-samedi-dernier-a-Paris/

- **La-croix.com** :
  https://www.la-croix.com/Culture/chanteuse-virtuelle-japonaise-Hatsune-Miku-conquete-Europe-2018-12-02-1300986862

- **lavenir.net :** https://www.lavenir.net/cnt/dmf20181202_01264700/la-chanteuse-virtuelle-japonaise-hatsune-miku-a-la-conquete-de-l-europe

- **lemonde.fr** :
  https://www.lemonde.fr/musiques/article/2018/12/02/la-callas-contre-hatsune-miku-le-match-des-holograms_5391640_1654986.html

- **Lepoint.fr** :
  https://www.lepoint.fr/insolite/la-chanteuse-virtuelle-japonaise-hatsune-miku-a-la-conquete-de-l-europe-02-12-2018-2275900_48.php

- **Liberation.fr :** https://www.liberation.fr/depeches/2018/12/02/la-chanteuse-virtuelle-japonaise-hatsune-miku-a-la-conquete-de-l-europe_1695506

- **Lci.fr** :
  https://www.lci.fr/high-tech/video-hologramme-electro-lasers-on-a-assiste-au-concert-de-hatsune-miku-la-pop-star-virtuelle-venue-du-japon-2106390.html

なお、日本でも以下のサイトで報道されました。

- スポーツ報知
  https://www.hochi.co.jp/entertainment/20181202-OHT1T50048.html

- WOWOW
  https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000004690.000001355.html

以上

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。